

平成25年度 農作物病虫害
防除対策情報 第4号

平成25年6月27日 秋田県病虫害防除所

斑点米カメムシ類の発生が多い

～直ちにノビエやホタルイ類の除草を徹底してください～

1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

- 1) 6月4半旬までの予察灯における越冬世代成虫の誘殺数（県内6地点平均）は、アカスジカスミカメが24.2頭（平成1.3頭）、アカヒゲホソミドリカスミカメが17.3頭（平成4.9頭）と多く、斑点米被害が多発した前年と比較して多かった（図-1、2）。
- 2) 向こう1か月の気温は平成並又は高いと予想され、第1世代成虫の発生時期は早まり、発生量は多くなると予想される。
- 3) 斑点米カメムシ類は農道や畦畔、休耕田等のイネ科雑草で増殖する。また、アカスジカスミカメはノビエやホタルイ類等のカヤツリグサ科雑草の穂に産卵するため、これらの雑草が水田内で繁茂すると斑点米被害が甚大になる（図-3）。
- 4) 以上のことから、斑点米カメムシ類の密度低減を図るため、水田内外の除草対策を徹底する必要がある。

2. 防除対策

- 1) 水田内のノビエやホタルイ類等のカヤツリグサ科雑草の除草を徹底する。これらの雑草が発生している場合は、草種や生育程度に合わせて適切な中・後期除草剤を選択し直ちに散布する。
- 2) 稲が出穂する10～15日前までに農道や畦畔、休耕田等の雑草を刈り取る。水田畦畔刈り込み軽減剤（グラスショット液剤）や水田畦畔刈り込み代用剤（タッチダウンiQ、バスタ液剤、ハヤブサ、ザクサ液剤、ラウンドアップマックスロード）を散布すると、40～50日の抑草効果が期待できる。

【 問 合 せ 先 】

秋田県病虫害防除所	TEL 018-860-3421
秋田県農業試験場	TEL 018-881-3327
掲載HP	http://www.pref.akita.lg.jp/bojo/

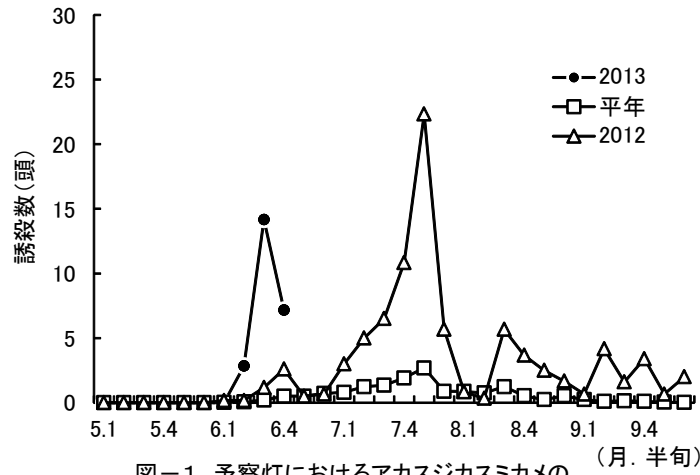


図-1 予察灯におけるアカスジカスミカメの誘殺消長(県内6地点の平均値)

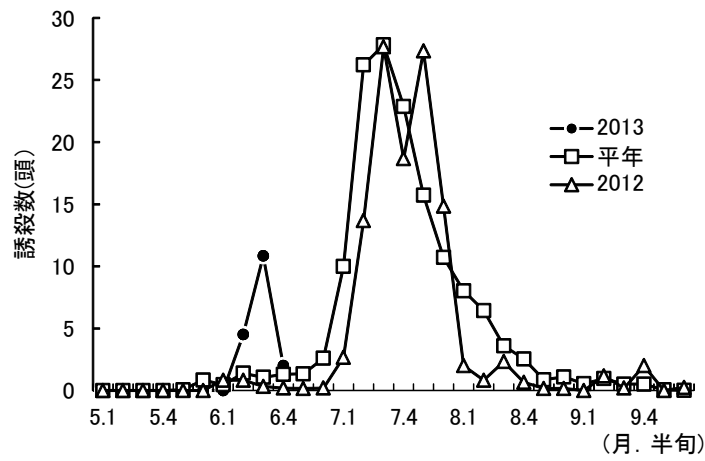


図-2 予察灯におけるアカヒゲホソドリカスミカメの誘殺消長(県内6地点の平均値)

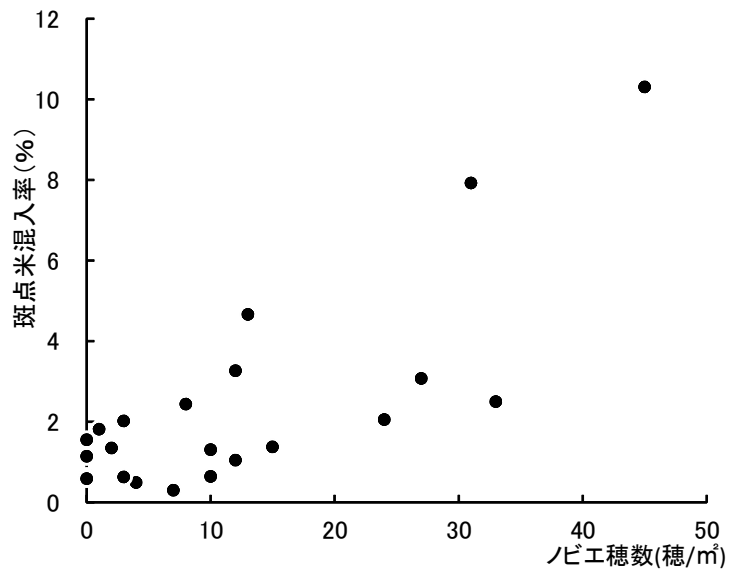


図-3 無防除条件下における8月下旬のノビエ穂数と斑点米混入率の関係(秋田農試, 2012)